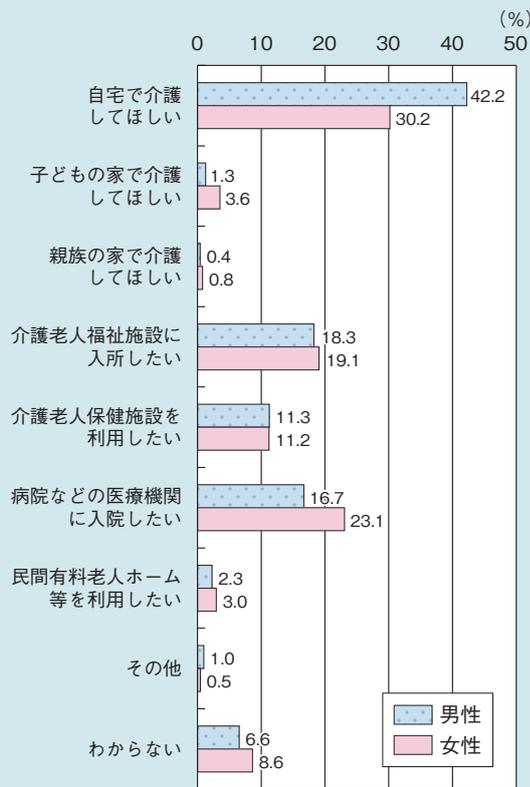
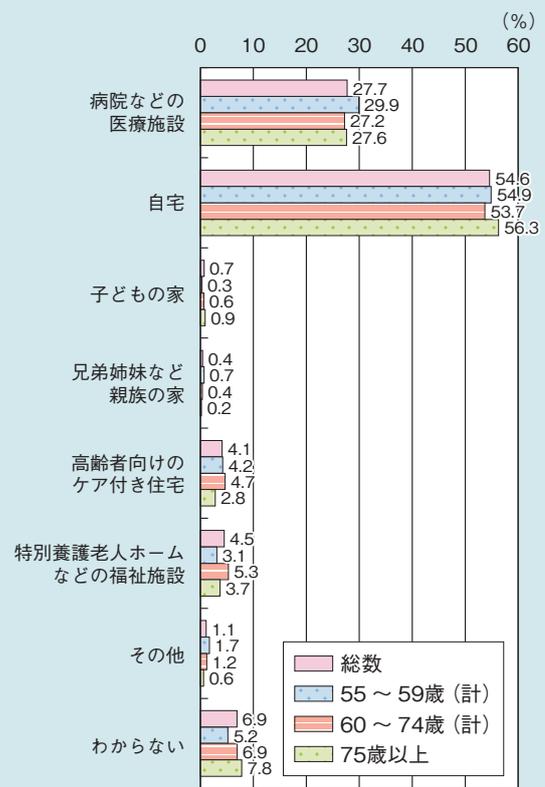


図1-2-19 介護を受けたい場所



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)  
 (注) 調査対象は全国55歳以上の男女。数値は60歳以上の男女

図1-2-20 最期を迎えたい場所



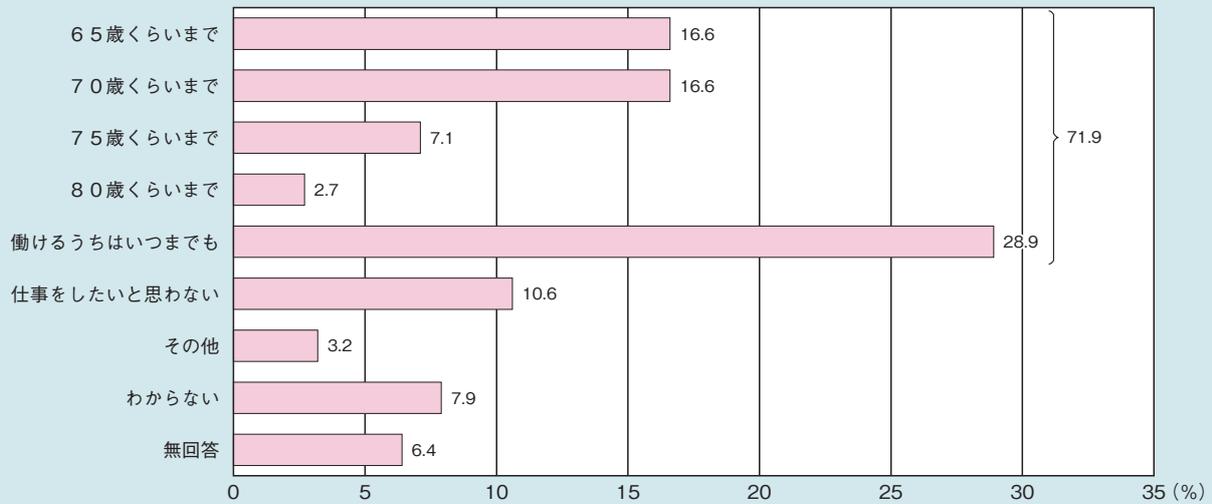
資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)  
 (注) 対象は、全国55歳以上の男女

## 4 高齢者の就業

### ○就労を希望する高齢者の割合は約7割

・60歳以上の高齢者に何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいか聞いたところ、「働けるうちはいつまでも」が28.9%と最も多く、次いで「65歳くらいまで」「70歳くらいまで」がともに16.6%となっており、就労を希望する高齢者の割合は71.9%となっている(図1-2-21)。

図1-2-21 就労希望年齢

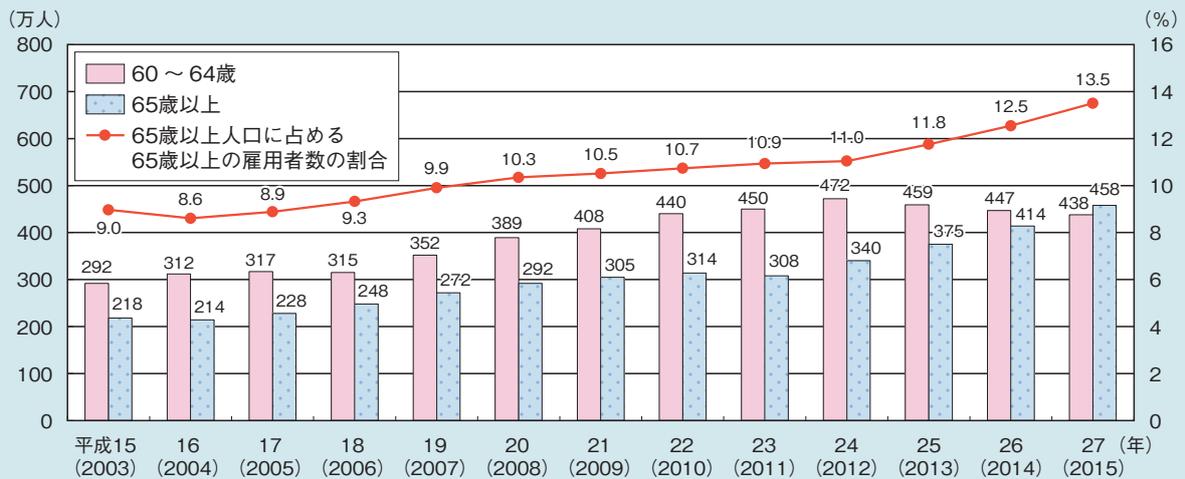


資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」(平成26年)  
対象は全国60歳以上の男女

### ○高齢者の雇用情勢

- ・全産業の雇用者数の推移をみると、平成27（2015）年時点で60～64歳の雇用者は438万人、65歳以上の雇用者は458万人となっており、65歳以上が60～64歳を初めて上回った（図1-2-22）。また、65歳以上人口に占める65歳以上の雇用者数の割合は上昇傾向にあり、27（2015）年は13.5%となっている。

図1-2-22 雇用者数の推移（全産業）

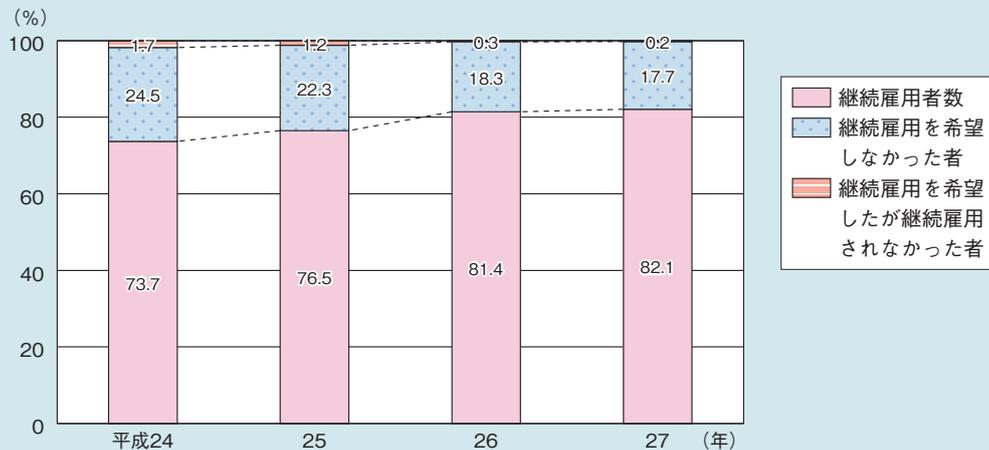


資料：総務省「労働力調査」、「国勢調査」「人口推計」（2015年は平成27年国勢調査人口速報集計による人口を基準とした平成27年10月1日現在確定値）

※平成23年は、岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県の集計結果

- ・60歳定年企業の定年到達者の状況をみると、平成27（2015）年6月1日時点において、過去1年間の定年到達者のうち、継続雇用された人の割合は82.1%となっている（図1-2-23）。

図1-2-23 60歳定年企業における定年到達者の状況

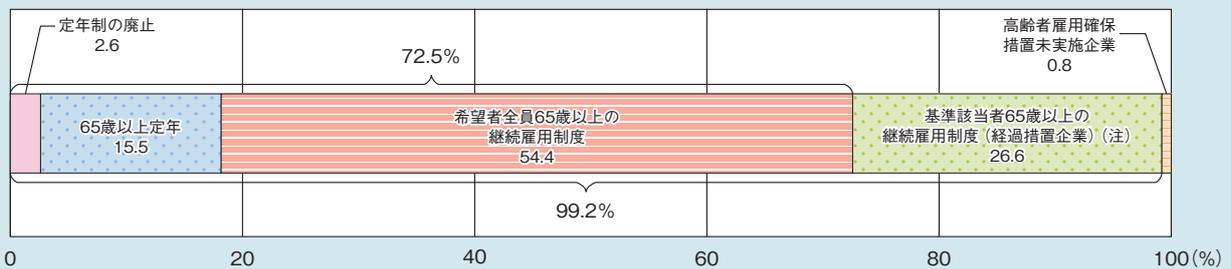


資料：厚生労働省「高齢者の雇用状況」（平成27年）  
 対象：従業員31人以上の企業約15万社  
 各年、過去1年間における定年到達者を集計した6月1日現在の数値

- ・従業員31人以上の企業約15万社のうち、高齢者雇用確保措置<sup>1</sup>の実施済企業の割合は99.2%（147,740社）となっている。また、希望者全員が65歳以上まで働ける企業の割合は72.5%（108,086社）となっている（図1-2-24）。

（注1）「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」では65歳までの安定した雇用を確保するため、企業に「定年制の廃止」、「定年の引き上げ」、「継続雇用制度の導入」のいずれかの措置を講じるよう義務付けている。

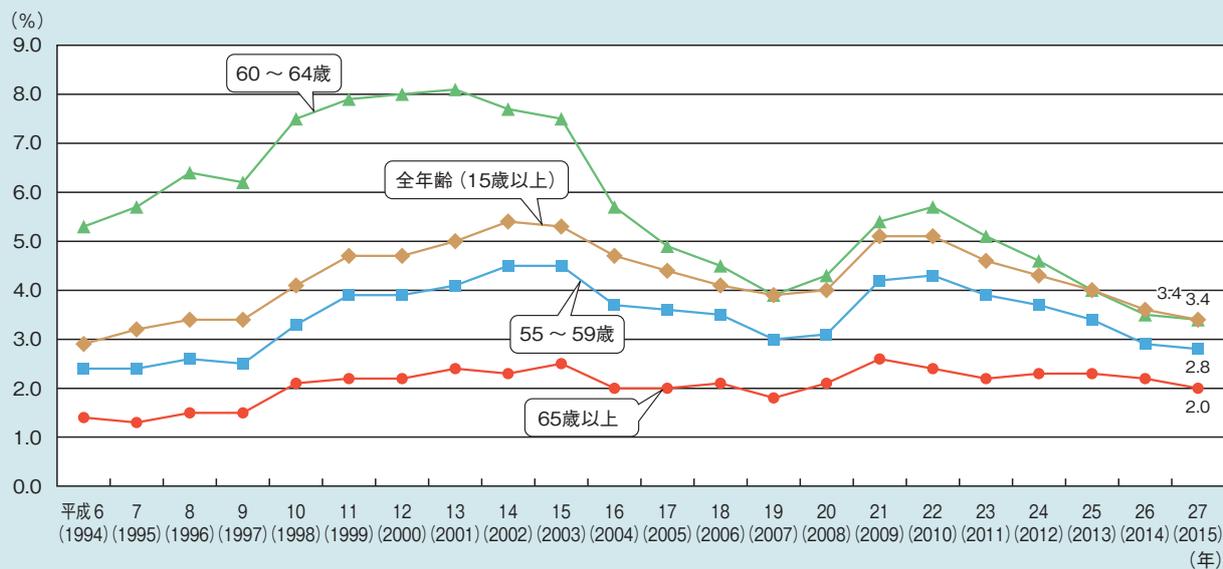
図1-2-24 雇用確保措置の実施状況の内訳



資料：厚生労働省「高年齢者の雇用状況」（平成27年）より内閣府作成  
 対象：従業員31人以上の企業約15万社  
 （注）高年齢者雇用安定法一部改正法（平成24年）の経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準がある継続雇用制度を導入している企業。平成25年3月31日までに継続雇用制度の対象者を限定する基準を労使協定で設けている場合、「平成28年3月31日までは61歳以上の人」等、継続雇用の対象者を限定する基準を適用することができる。

- ・近年、経済情勢の急速な悪化を受けて特に60～64歳の完全失業率が上昇していたが、平成23（2011）年以降は低下し、27（2015）年は15歳以上の全年齢と同水準となっている（図1-2-25）。

図1-2-25 完全失業率の推移



資料：総務省「労働力調査」

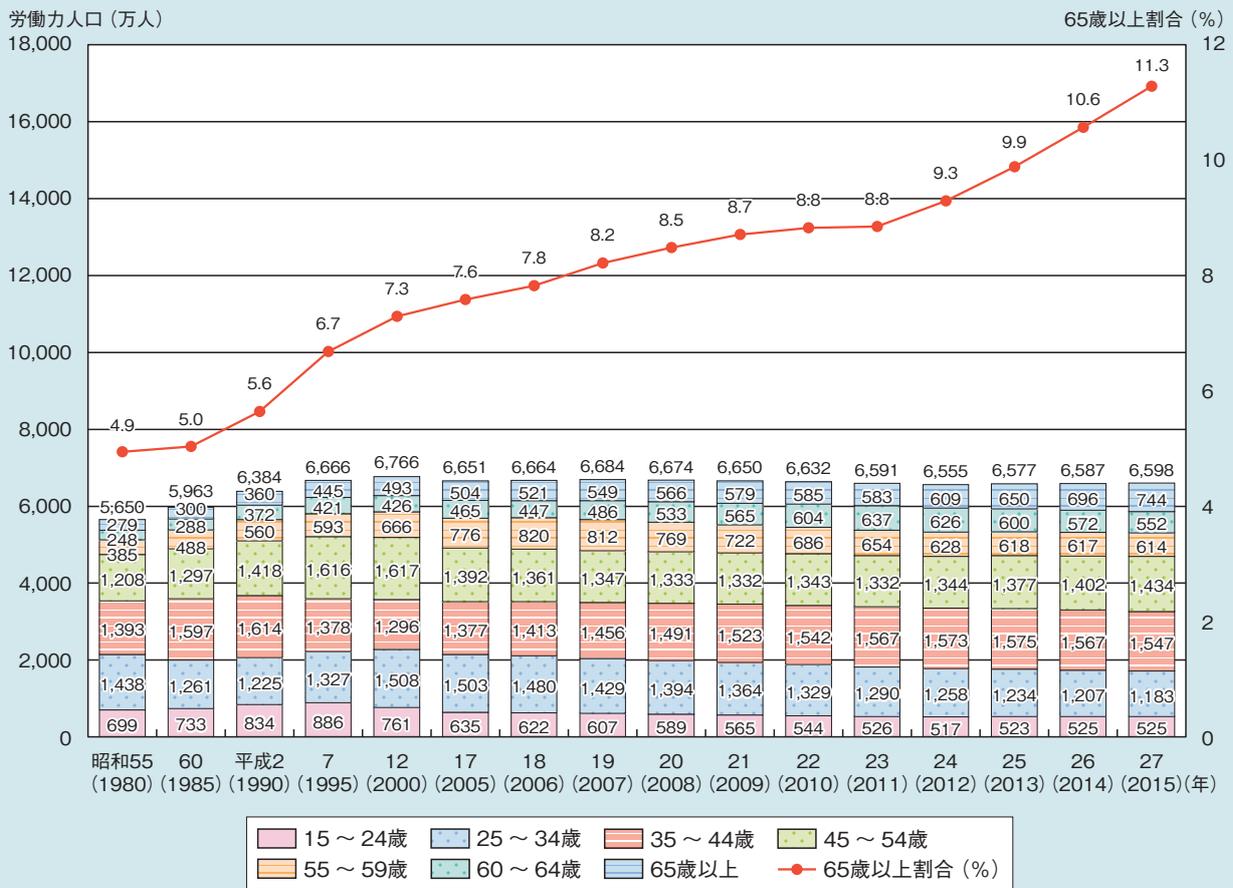
(注1) 年平均の値。

(注2) 平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

### ○労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率は昭和55（1980）年から大きく上昇

- ・平成27（2015）年の労働力人口は、6,598万人であった。
- ・労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率は11.3%となり、昭和55（1980）年の4.9%から大きく上昇している（図1-2-26）。

図1-2-26 労働力人口の推移



資料：総務省「労働力調査」（年齢階級別労働力人口及び労働力人口比率）より内閣府作成  
 (注1)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。  
 (注2)平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

## 5 高齢者の社会参加活動

### ○グループ活動に参加したことがある高齢者は約6割

- ・60歳以上の高齢者の61.0%は何らかのグループ活動に参加したことがあり、20年前と比べて18.7ポイント増加している（図1-2-27）。
- ・自主的なグループ活動に参加したことがある高齢者の、活動全体を通じて参加してよかったことは、「新しい友人を得ることができた」（48.8%）が最も多く、次いで「生活に充実感ができた」（46.0%）、「健康や体力に自信がついた」（44.4%）の順となっている（図1-2-28）。
- ・高齢者が参加したい団体をみると「趣味のサークル・団体」（31.5%）が最も多く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」（29.7%）となっている。また、参加している団体をみると、「町内会・自治会」（26.7%）が最も多く、約4人に1人が参加している（図1-2-29）。